



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

11月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

共に過ごす中で育つ気持ち

副園長 本橋 房子

今年、4年振りに3学年一緒の運動会を行いました。当日は、たくさんの方々にご参観いただき、温かいご声援や大きな拍手で応援していただきました。ありがとうございました。子どもたち一人一人が自分の力を出して取り組み、やり終えた時の笑顔は満足感でいっぱいでした。

保護者の方からは、「年長さんが立派に司会をする姿やバルーンやリレーをみんなで頑張る姿に感動しました。子どもが年長になるのが楽しみです」「3、4歳児の姿を見て、小さかったときのことを思い出し、より子どもの成長を感じました」「待っているときの子どもたちが他の学年の子を応援する姿が微笑ましかったです」というような感想が多く寄せられ、改めて3学年一緒に行くよさを感じました。

3、4歳児にとって、5歳児はいろいろなことができて優しくしてくれる憧れの存在です。運動会前から5歳児に混ざってリレーをしている4歳児や、大きめの布をバルーンのようにして遊ぶ3歳児がいました。運動会后、5歳児は、いつも自分たちのバルーンを見ていた3、4歳児に、「バルーンを一緒にやってみる？」と誘いました。3、4歳児は、5歳児に優しく教えてもらい、自分たちもバルーンができたことがとても嬉しそうでした。驚いたのは年下の子どもたちがバルーンの技をちゃんと覚えていたことです。「年長さんすごいな」「おもしろそうだな」という気持ちで本当によく見ていたのだと思います。

優しい気持ちはつながっていくようです。3歳児が、4歳児の踊りで使ったキラキラベルトや海賊の帽子を貸してほしいと言いに来ると、4歳児は快く貸し、ベルトの付け方に困っているのを見ると手伝い、一緒に踊りながら教えていました。3歳児も4歳児も笑顔が輝いていました。

その数日後、芋掘り遠足のため、いつもよりも遅い時間から預かり保育の4歳児が午睡をしていました。先に起きた3歳児に保育者が、4歳児は、もう少し寝ることを伝えると「忍者みたいに静かにする」と言い、いつもなら廊下でバタバタと走り、大声でしゃべっている子どもたちが、4歳児を起こさないよう気を付けながら廊下に出る姿が見られました。年上の子たちが優しくしてくれたことから親しみを感じ、3歳児なりに相手を思って行動する優しい気持ちが育っていることが嬉しくなりました。

園では、3学年の幼児が関わり合って生活する中で、見合ったり、触れ合ったり、言葉を交わしたりしながら相手のことを知っていきます。今回の運動会に向けての取り組みや、運動会後の経験では、今まで以上に子ども同士の心の距離が近くなり、相手のことを思う気持ち、優しい気持ちが育まれたことを感じます。これからも様々な場面で子ども同士の関わり合いを通して、周りの人と関わることを楽しいと思う気持ちや相手のことを思いやる気持ちを育てていきたいと思っています。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・遊びや生活の中で、できることが増えてきたことに喜びを感じ、進んでしようとする。
 - ・身近な素材を見立てたり、思い付いたものを作ったりして、自分なりになりきって遊ぶことを楽しむ。
 - ・保育者や友達と関わる中で、自分の気持ちを動きや言葉で表そうとする。
- 〈4歳児〉
 - ・気の合う友達と遊ぶ中で、自分なりの思いやイメージを言葉や動きで表したり、友達の言葉を聞いたりし、相手にも自分と違った思いがあることに気付く。
 - ・お話しごっこや楽器遊びなど、学級のみんなでする活動に取り組む中で、自分なりに表現を楽しんだり、友達と一緒に動くことを楽しんだりする。
- 〈5歳児〉
 - ・遊びの中で、友達と思いや考えを出し合い、イメージを共通にしたり、伸び伸びと表現したりすることを楽しむ。
 - ・自分の目標に向かって繰り返し取り組んだり、友達とルールのある遊びをしたりして、いろいろに体を動かすことを楽しむ。
 - ・季節の変化を感じながら秋の自然に興味や関心をもち、自分から関わろうとする。

